

平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日から平成30年3月31日)

特定非営利活動法人フードバンク信州

I 事業の総括

「食品ロス削減」と「生活困窮者支援」の2つの課題に対して、多様な機関、団体、住民等との協働により「食」を通じた地域の支え合いの仕組みを構築し、長野県内の各地域に普及、定着させていく活動に取り組んだ。

流通の過程で販売ルートから外される食品や、家庭で使用されずに眠っている食品を受け入れ、食料を必要としている人や団体につないで、資源を循環させることで支え合いの地域づくりを進める活動の推進を図った。

フードバンク信州が目指す活動は、2015年に国連のサミットで採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」の目標達成に合致する活動であるので、企業、行政、地域、家庭、学校と連携し活動を浸透させることを目指した。

平成30年度は、次の柱に沿って事業を実施した。

① 多様な連携による食料の受け入れと提供

- ・企業、団体等からの寄贈受入
- ・フードドライブの開催、普及
- ・食料支援ニーズの把握
- ・生活困窮者自立のための緊急支援
- ・

② 地域における協働活動展開

- ・地域拠点の活動推進(長野、上田、松本、飯田)
- ・地域関係者の協働活動推進
- ・地域内の食料循環システムづくり

③ 「食」を通じた子ども支援

- ・フードバンク子ども応援キャンペーン
- ・子どもの居場所活動への食料提供
- ・子どもたちの食育活動を支援し、食の大切さを未来につなげる

④ 人材養成と地域づくり

- ・セミナーや担い手養成講座の開催
- ・企業、団体等のフードドライブ活動支援
- ・広報、啓発活動推進

II 実施事業

1 食料の受け入れと提供

企業や家庭から食品の寄贈を受け、生活困窮者や子どものいる家庭等で、支援を必要としている世帯及び相談支援窓口などに提供し、生活を支える支援を行った。

フードバンク活動への理解し協力をしていただく企業、団体、個人等は次第に増加し、1年間にフードバンク信州に寄贈された食料は、約 29 トンとなった。このうち企業や団体などから寄贈された食料は 16 トン（54%）、県内各地域のフードドライブで集まった食料は 13 トン（46%）であった。

(1) 食料の受け入れ

① 企業・団体等から食料寄贈

食料寄贈についての同意書を取り交わし、寄贈に協力いただいている企業は平成 31 年 3 月末で 25 社となった。食料寄贈に協力する企業は、食品関連企業その他、社内の災害備蓄食料の入れ替えによる寄贈なども多く寄せられた。

団体では、J A長野中央会、長野県労働者福祉協議会、コープながの、ワーカーズコープ、高齢者生活協同組合などの多様な団体が食料寄贈に協力いただいた。

企業からの寄贈は、食品関連企業からの寄贈の他、食品関連以外の企業から災害備蓄品の入れ替えによる寄贈も多数あった。

② フードドライブによる食料寄贈

年間のフードドライブの開催回数は、長野、松本、上田の 3 地域の定期開催が 34 回、イベントなどでの開催が 87 回で計 121 回となった。県内各地域で行政、社会福祉協議会、ライオンズクラブ、商工会議所、企業、労働組合、高校などが独自に取り組んだイベント型フードドライブは、前年度の 1.6 倍となり、関心が高まっている。

松本、上田、飯田の 3 地域拠点においても、行政や関係団体のネットワークによるフードドライブの開催が進み、地域内で食料を循環させる動きが広がってきた。

(2) 食料の提供(支援)

フードバンク信州が受け入れた食料は、県内の生活・就労支援センター（まいさぼ）や民間の支援団体を通して、支援が必要な世帯に対して提供するとともに、相談窓口や支援団体、社会福祉施設、子どもの居場所などの支援に活用した。

[食料提供の方法]

① 生活困窮者への個別支援

生活困窮者への食料支援は、長野県社会福祉協議会と長野市社会事業協会の就労支援事業所（ななせ仲まち園）が実施する食料支援事業と連携し 3 者の協働により食料提供を行っている。

フードバンク信州に寄贈された食料は、ななせ仲まち園において一括管理保管され、困窮者への個人支援に提供されている。発送作業には、ななせ仲まち園の利用者も従事

して就労体験の場ともなっている。

平成 30 年度は、県内のまいさぼから 617 人の申込みがあり、延 1,425 件、約 11.1 トンの支援を行った。

② 「食」を通した子どもの支援

子どもの貧困率が 13.6%で、7 人に 1 人が貧困といわれている中で、子どもの貧困 支援の関心が高まっていることから、フードバンク信州では、子どもに対する「食」支援の活動に取り組んだ。平成 30 年度は、子ども応援キャンペーンのモデル実施と子どもの居場所づくりを行う団体への食料支援を行った。

ア 子ども応援キャンペーン

子どもの貧困の 1 つの現象として、夏休みや冬休みの長期休みで学校給食のない時期に、十分な食事をとれずに栄養不足になっている子どもたちがいるということが課題になっている。

そういう子どものいる家庭に対して、長期休み中に食料を提供するキャンペーンを企画実施した。平成 30 年度は、県教育委員会、子ども家庭課、地域福祉課の協力を得て、須坂市と諏訪郡富士見町の 2 地域で、小学校の協力をいただき夏休み冬休みの期間中にモデル的に実施した。夏・冬合わせて 88 世帯から申し込みがあり支援した。

イ 子どもの居場所づくり活動の支援

近年、子ども食堂など子どもの居場所づくり活動が増えている状況があり、活動のための食料調達のニーズが多くなっていることから、平成 30 年度は、長野県が実施する信州子どもカフェ推進地域プラットフォーム事業」と連携し、居場所を運営する団体に対する支援を行った。フードバンク信州本部が 1 年間で支援した団体は 39 団体、支援食料は 2.2 トンとなった。

このほか、松本、上田、飯田の各拠点においてもそれぞれの地域の子どもの居場所活動への食料支援を行っている

③ 相談支援機関・団体等の活動支援

生活困窮者の相談窓口や支援団体の緊急ニーズに対応するため、企業からの大量の寄贈食品や災害備蓄食料を緊急窓口支援用に県内のまいさぼ、社会福祉協議会、福祉事務所などの機関・団体、施設等に提供した。

平成 30 年度は、約 10 トンの食料を提供した。

〔食料受入実績〕（2018年4月～2019年3月）

区分	寄贈者	寄贈者数	回数	重量(kg)
①直接寄贈	企業	18 企業	46	6,593
	団体	41 団体	125	5,794
	個人	75 人	105	3,195
	計			15,582
②フードドライブ	定期開催(長野、上田、松本)		34	4,320
	各種イベント開催		87	9,150
	計			13,470
合計				29,052

〔食料提供実績〕（2018年4月～2019年3月）

区 分	件数	重量(kg)	備考
①個人配送	1,425 件	11,141	申込み —県内のまいさぼを通して申込みを受け 配送 —ななせ仲まち園から個人あて直接郵送 ・連携窓口 まいさぼ 24 か所 ・利用自治体 43 市町村(617 人)
②相談支援機関 福祉施設・団体等	69 団体	14,562	・地域の相談支援機関の窓口(まいさぼ) ・市町村社会福祉協議会 ・社会福祉施設・支援団体 等
③子ども支援		3,202	
・子どもの居場所	39 団体	2,174	・子どもの居場所運営団体に食材提供
・子ども応援キャンペーン	88 件	1,028	・夏休み 2 回 延 35 世帯 ・冬休み 1 回 53 世帯
計		28,905	

2 地域における協働活動の展開

地域の関係者が連携して、地域内で食料の循環を図るしくみを構築するため、4 か所（長野、上田、松本、飯田）の地域拠点を運営し、地域活動基盤の強化を図った。

(1) 地域拠点の活動推進

地域拠点は、下記の団体に事務所としての役割を委託し、地域の中で食料を循環する仕組みの核として活動を展開が定着してきた。それぞれの地域内でのフードドライブの開催も増え、地域ごとの食料の収集、支援の仕組みが機能してきた。

- ・長野地域拠点 長野栗田事務所
- ・松本地域拠点 ワーカーズコープ松本事業所
- ・上田地域拠点 社会福祉法人上田明照会
- ・飯田地域拠点 ほほえみのゆめプロジェクト

(2) 地域関係者会議の開催

拠点設置地域において活動にかかわる地域関係者会議を開催し、地域のニーズを把握、協働による活動展開の基盤づくりを行った。

平成30年度は、松本、上田、飯田の3地域で開催し、それぞれの地域の行政、社会福祉協議会、困窮者支援団体、労働者福祉協議会など関係者が参加し、フードドライブの継続開催、地域のネットワークの拡大について協議した。

3 人材育成と広報啓発

(1) セミナーの開催

フードバンク活動についての理解を広め、協力者を増やすとともに、地域で活動を主体的に担う人材を確保するためのセミナーを開催した。

平成30年度は、子ども支援の地域プラットフォーム活動とフードバンク活動を効果的につなぎ、地域の中で子どもの暮らしを守り、支え合いを生み出す協働活動を考えるため、「こども支援とフードバンク活動を広げるセミナー」を長野県将来世代応援県民会議と共催で開催した。

	東北信会場	中南信会場
日時	2019年1月22日(火)	2019年1月26日(土)
場所	小諸市市民交流センター	塩尻市総合文化センター
基調講演	「子どもの貧困と“食”の意味」 講師：鈴木忠義氏 長野大学社会福祉学部教授	「“子ども”と“食”と地域支え合い」 講師：尻無浜博幸氏 松本大学総合経営学部教授
パネルディスカッション	パネリスト ・フードバンク軽井沢 「フードドライブとあたしキッチン」 ・社会福祉法人上田明照会 「学習支援とフードバンクと生活支援」 ・佐久地域こども応援プラットフォーム 「子ども応援の広域ネットワーク」 コーディネーター 長野県みらい基金理事長 高橋 潤	パネリスト ・ワーカーズコープ松本事業所 「フードバンクと子どもの居場所」 ・富士見町教育委員会 「こども応援キャンペーンの取組み」 ・南箕輪村社会福祉協議会 「フードバンクとまほうのおなべ」 コーディネーター フードバンク信州副理事長 美谷島越子
グループワーク (地域協働担い手 養成講座)	テーマ 「子ども支援」と「食支援」のネットワークを地域の中でどうつなげるか だれが、どこで、なにを するのか？	

参加者は小諸会場は84名、塩尻会場は51名、計135名となった。

アンケートの感想では、次のような感想が寄せられた。

- ・ 貧困世帯へ今後どういった支援をしていったらいいのかを考える良い機会でした。
- ・ 参考にしたいと思える内容が沢山あり、有意義な時間でした、
- ・ 普段あまり身近に感じられない子どもの貧困問題ですが、今後も気を付けて協力していきたいと思いました
- ・ 地域の支え合いの大切さ、食について考えることができました、
- ・ 今後、大きな可能性を感じる会でした。様々な団体の方や行政の方が大きく関わっていることがわかりました

(2) 啓発活動

企業、団体、学校等で、フードバンクへの関心が高まり、活動参加のための研修会や学習会などへの、講師派遣の要請に対して、スタッフを講師として派遣した。

年月日	イベント名	主催者	テーマ
2018/4/20	飯田地区労働者福祉協議会 生涯サポート研修会	飯田地区労働者福祉協議会	フードドライブの取組みについて
5/31	長野西高等学校3年1組FB学習会	長野西高等学校3年1組	フードドライブ活動について
6/22	スーパーグローバルハイスクール学習 フィールドワーク	長野高等学校	食品ロスとフードバンク活動について
6/25	木曽南部民生児童委員協議会合同研修会	大桑村民生児童委員協議会	フードバンク事業について
10/4	スーパーグローバルハイスクール学習 課題研究発表会	長野高等学校	食品ロスと貧困
10/8	北信ブロックボランティアの集い	北信ブロック社会福祉事業連絡協議会	フードドライブと子どもカフェ
10/28	チャイルドラインうえだ 子どもサポーター養成講座	チャイルドラインうえだ	子どもの貧困
11/13	連合上伊那地協 学習会	連合長野上伊那地域協議会	フードバンクとは？
11/18	千曲市森区 人権教育研修会	千曲市森区	フードドライブから始まるボランティア
11/22	新光電気工業職場委員学習会	新光電気工業(株)労働組合	フードバンクとは？
11/27	新光電気工業職場委員学習会	新光電気工業(株)労働組合	フードバンクとは？
11/29	清泉女学院短期大学 国際コミュニケーション科講義	清泉女学院短期大学	フードロスと貧困家庭の支援
2019/1/16	長野県立大学 グローバルマネジメント学部講義	長野県立大学	日本のフードバンク活動について
1/20	諏訪圏域子ども応援プラットフォーム研修会	諏訪圏域子ども応援プラットフォーム	子ども支援とフードバンク活動
1/27	青年塾東海クラス 長野講座	青年塾(企業青年研修機関)	フードバンク信州の活動について
3/1	JA上伊那生活部会役員研修会	JA上伊那	フードドライブについて
3/1	JA長野県食農教育推進大会	JA長野中央会	フードバンク信州の取組みについて
3/26	長野県商工会議所女性会連合会研修	長野県商工会議所女性会連合会	フードバンク信州の取組みについて

(3) 広報

広報では、県内の様々な企業、団体が取り組んだフードドライブや子どもの居場所活動、食料の寄贈などの様子を、フェイスブックにアップし、年間 135 件の活動を紹介した。

III 新たな協働による活動

1 学校や地域との協働による子ども支援

子どもの貧困に対する支援活動は、地域での子ども食堂など子どもの居場所づくり活動が近年急速に増加しているが、子どもたちのニーズが潜在化しており把握しにくいいため、運営上の課題が多く、継続が難しいというケースも見られている。

この課題に対して、子どもたちを日常的に支援する活動と併せて、学校給食がない長期休み中に、希望者する世帯に食料提供をする「フードバンク信州子ども応援キャンペーン」をモデル的に実施した。

〔キャンペーンの概要〕

○目的

夏休みや冬休みなど長期休暇中は、給食がないため十分な食事や栄養がとれずに休み明けに健康状態に課題を生じる事例もあり、食料支援ニーズがあると思われる。

このような長期休暇中のニーズを把握し、食料支援を希望する世帯に対して個別に食料提供を行う。

○活動内容（2018年度は、2地区においてモデル実施）

① 個別世帯への食料提供

子どもがいる世帯で、様々な生活課題により食料が不足しがちで、夏休みと冬休みの期間中に食料の提供を希望する家庭に対して支援を行う。

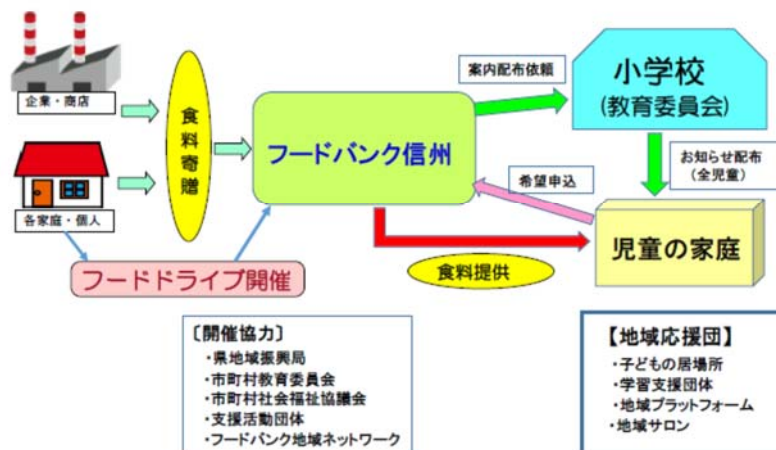
② 「子ども応援キャンペーン」フードドライブの実施

「子ども応援キャンペーン」支援に協賛するフードドライブを県内各地域で実施し、広く市民の協力を呼びかけ、食料収集を行う。

③ 子どもの居場所等への食料提供支援

長期休暇中にモデル地域において居場所を開催する団体に食料を提供支援する。

子ども応援キャンペーンの流れ



〔キャンペーンの実施経過と結果〕

○須坂市と富士見町の教育委員会及び学校との連携

キャンペーンの企画は、小学生がいる家庭で様々な生活課題により食料が不足しがちで、長期休暇中に食料の提供を希望する家庭を対象に支援を行うという方針で、夏休みと冬休みに県内2地域の小学校の協力をいただいてモデル実施した

平成30年度は、須坂市の2小学校と諏訪郡富士見町の3小学校を対象に実施した。実施に当たっては、地元の教育委員会と小学校の理解をいただき、キャンペーンの案内を全児童の家庭に配布し、希望する場合はフードバンク信州に直接申し込んでもらうという連携により新しい支援の流れが生まれた。

○実施結果

① 個別世帯への食料支援

	夏休み		冬休み	計
	第1回	第2回		
申込み世帯数	17世帯	18世帯	53世帯	88世帯
食料送付重量	223 kg	217 kg	588 kg	1,028 kg

② キャンペーン協賛フードドライブの開催

夏休み 7～8月に県内15か所で開催 収集食料 1,500 kg

冬休み 11～12月に県内25か所で開催 収集食料 4,000 kg

③ 子どもの居場所への食料提供

夏休み 32団体に491 kgの食材を提供

冬休み 7団体に83 kgの食材を提供

〔アンケートから〕

○キャンペーンを利用した世帯からの感想（一部抜粋）

- ・箱を開けた時に子どもが「ワ～ッ！」と喜びの声をあげました。
- ・夏休みは食費が増えるのでとても助かっています。
- ・ゴミになる前に食品が他の人のために活かされていることがすばらしいと思いました。
- ・普段高くて買えないものがたくさんあって親も子どももすごく嬉しかったです。
- ・今回の食品にはたくさんの優しさと思いが詰められており、そのことも子供に伝えてあげたくいただきました。
- ・申請してもよいのか初めは迷いましたが、申請して良かったです。

2 災害時における支援団体との協働活動

平成 30 年 7 月に発生した西日本豪雨災害の被災地で支援活動をしているボランティアに対して、熱中症対策飲料（スポーツドリンク等）が不足しているというニーズがあり、長野県社会福祉協議会等の支援団体と協働で「西日本災害ボランティア応援物品支援キャンペーン」を行った。

フードバンク信州が、協力企業等から飲料を募集し、県社協が運搬ボランティアに依頼し、8月～9月に4回現地に届けた。

[活動の状況]

寄贈日	寄贈先	寄贈物品
8月12日（日）	広島県呉市災害ボランティアセンター	○長野県生活協同組合連合会寄贈 （スポーツドリンク 500ml×24本×10箱） ○ゴールドバック株式会社寄贈 （ぶどう水 500ml×24本×20箱）
8月26日（日）～ 8月28日（火）	広島県三原市災害ボランティアセンター	○水（養命酒寄贈）24本入り×5箱
8月27日（月）～ 9月14日（金）	広島県呉市災害ボランティアセンター	○フードバンク信州寄贈 （スポーツドリンク 24本入り×2箱） ○長野市災害ボランティア委員会寄贈 （スポーツドリンク 24本入り×3箱+19本） ○県社協寄贈 （スポーツドリンク 24本入り×2箱、 お茶 24本入り×2箱）
9月17日（月）～ 9月19日（水）	岡山県倉敷市災害ボランティアセンター	○長野県生活協同組合連合会寄贈 （スポーツドリンク 24本入り×10箱） ○長野市災害ボランティア委員会 （スポーツドリンク 24本入り×7箱+39本）

○寄贈物品合計

- ・スポーツドリンク 24本入り×34箱+58本=874本
- ・ぶどう水 24本入り×20箱=480本
- ・水 24本入り×5箱=120本

IV 運 営

(1) 会員の構成 平成 31 年 3 月 31 日現在

	団体	個人	合計
正会員	20	21	41
賛助会員	46	24	70

(2) 理事会

- 第 1 回 平成 30 年 7 月 5 日 もんぜんぷら座 座 304 会議室
- ・夏休み子ども応援キャンペーンの実施計画について
 - ・今後の組織運営について
- 第 2 回 平成 30 年 9 月 6 日 もんぜんぷら座 302 会議室
- ・組織強化について
 - ・セミナーの開催計画について
 - ・理事の旅費規程について
- 第 3 回 平成 30 年 11 月 8 日 もんぜんぷら座 303 会議室
- ・諸規定の制定について
 - ・冬休み子ども応援キャンペーンの実施計画について
 - ・助成金の申請状況について
- 第 4 回 平成 31 年 2 月 8 日 もんぜんぷら座 303 会議室
- ・2019 年度事業奉仕について
 - ・資金計画及び会員拡大計画について
- 第 5 回 平成 31 年 4 月 23 日 もんぜんぷら座 303 会議室
- ・平成 30 年度総会について